

教育プログラム・コースの概要

大学名等	北海道大学病院卒後臨床研修センター歯科卒後臨床研修部門
教育プログラム・コース名	北海道大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療の周術期における口腔管理研修コース
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟し、歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる研修歯科医
修了要件・履修方法	修了要件： 講義受講後にレポートを提出し、研修終了後に運営委員会による口頭試験に合格すること。【北海道大学病院卒後臨床研修センター選択科目】 履修方法： 次項の履修科目内容のコース（学部教育における約1単位相当分）を新設し、希望する研修歯科医8名程度に選択履修させる。次項の内容は既存の研修を高度化させるものであるが、厚生労働省に認可されたプログラムの範囲内であり、認可申請を待たずとも開始可能である。
履修科目等	<北海道大学卒後臨床研修必修科目> がん治療の周術期における口腔管理研修コース 1. がん治療の周術期管理セミナー（90分×7回） 第1回：がん化学療法全般 第2回：がん放射線療法全般 第3回：耳鼻咽喉科領域のがん治療 第4回：血液内科領域のがん治療 第5回：小児科領域のがん治療 第6回：がん治療と口腔内合併症 第7回：がん患者の歯科治療と医療連携 2. がん化学療法前の口腔管理演習（90分×1回） 新患担当症例のプレゼンテーションと問題点のディスカッション 3. がん治療周術期の口腔管理研修 （1）がん化学療法前の口腔管理を目的とした新患の診察治療（2週間の研修を1回） （2）耳鼻咽喉科、血液内科、小児科の各病棟への周術期口腔管理の往診（各科病棟2週間ずつ、計6週間の研修）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北海道大学病院では平成26年度から、歯科診療センターと腫瘍センターとの連携が強化され、ビスフォスフォネート製剤や抗ランクル抗体製剤使用前には歯科受診による口腔内の精査ならびに治療が必須化された。医科からの依頼患者は口腔ケア部門で一括して口腔ケア専門の担当医が対応することになったが、研修歯科医が指導医のもとで診察と治療を行うことにより診断や治療の実践的教育が可能となる。さらに、耳鼻咽喉科、血液内科、小児科病棟への往診の見学やカンファレンスへの参加により、多様ながん治療における歯科医療連携の重要性を体験することが可能となる。 <u>地域におけるがん患者の医療連携に関する一連の研修は、従来、開業医・勤務医に対して講習会により行ってきたものであるが、卒直後から大学病院で研修歯科医に対して行うことに新規性と独創性がある。</u>

指導体制	<p>教育プログラムの統括 北海道大学・井上哲教授（臨床教育部門） 北海道大学・柏崎晴彦講師（高齢者歯科） 北海道大学・浅香卓也助教（口腔診断内科）</p> <p>各履修プログラムの担当者</p> <p>1. がん治療の周術期管理講義 第1回：北海道大学病院腫瘍センター・小松嘉人部長（化学療法部） 第2回：北海道大学・大森桂一講師（歯科放射線科） 第3回：北海道大学・本間明宏准教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科） 第4回：北海道大学・重松明男助教（血液内科） 第5回：北海道大学・井口晶裕助教（小児科） 第6回：北海道大学・山崎裕教授（高齢者歯科） 第7回：北海道大学・北川善政教授（口腔診断内科）</p> <p>2. がん化学療法前の口腔管理演習 北海道大学・井上哲教授（臨床教育部門） 鄭漢忠教授（口腔顎顔面外科）</p> <p>3. がん治療周術期の口腔管理研修 (1) 北海道大学・浅香卓也助教（口腔診断内科） 北海道大学・高橋大郎助教（予防歯科） (2) 北海道大学・吉川和人助教（口腔診断内科） 北海道大学・柏崎晴彦講師（高齢者歯科） 北海道大学・菊入崇助教（小児・障害者歯科）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>近年、がん患者の歯科医療連携は、地域歯科医師会を中心に勤務医・開業医に対し行われているが一部の地域を除き十分な成果が得られているとは言い難い。本プログラムにより研修医の段階でこの医療連携に精通させ、地域歯科医療の核になる人材を育成する。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	北海道大学病院研修歯科医		8	8	8	8	32
	計	0	8	8	8	8	32